

午前 11 時 20 ~ 30km 圏内屋内避難指示

Q：1号機建屋が12日午後3時36分、3号機建屋が14日午前11時1分水素爆発で建屋の上部が崩壊しましたが、津波後から爆発までの間に対策の方法はなかったのですか？

A：確かに1号建屋が津波から1昼夜、3号建屋は約3日経っており、その間現場職員の皆さんは死にものぐるい活躍をしていたと思います。

文字通り「フクシン・フィフティ」と世界が評価している通りです。

何度も説明してきましたが、全ての電源が停止したのですから、如何にして冷却水を循環させるかですかに集中してははずです。

では何故、1号と3号の爆発に時差があったのか、をみてみます。

地震で外部電源である鉄塔が倒壊したため、所内の外部電源を喪失したため、非常用電源であるディーゼル発電機が起動したが、地震発生41分後の午後3時27分第一波とする波高15mを超える大津波が襲い、以後数回にわたり大津波は防波堤を超え、施設を破壊、地下室や立坑にも浸水、地下にあった1～6号機の非常用電源は水没、使用不能に陥った。

1号機では地震直後、非常用復水器が起動したが、急激な圧力低下があり、懸命に調整に努力したが、そこへ津波襲来、午後3時50分遮断状態のまま非常用復水器は使用不能に陥り、同時に計器、動弁電源も失われ、後は電源車の来援を待つしかなかった。

11日午後7時30分頃には1号機の燃料は蒸発による水位低下で全露出して炉心溶解がはじまった。所内での直流小電源融通で動かした非常用復水器も夜半の12日午前1時48分に機能停止、12日の明け方6時頃には全燃料がメルトダウンした。

11日午後8時50分、1号機のメルトダウン必至となり福島県知事 原発半径2km圏内の住民に圏外への即時避難指示。

11日午後9時23分、菅総理、福島県知事を通して、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町各町長へ「1号機から半径3km圏内は圏外へ即時避難、半径10km圏内の住民は屋内避難」

12日午前5時44分、10km圏内の住民は圏外避難指示

12日午後8時00分、半径20km圏内住民は圏外避難指示、対象住民17万5000人

1号機、12日午前1時48分に機能停止、12日早朝6時には頃には全燃料がメルトダウンに至った。

時間が経過すると格納容器内の圧力が通常値を遥かに超えてしまいます。そのままにし

